

藤沢市企業等環境緑化推進協議会 機関紙

会員
募集中!

緑光

Ryokkou

No.78
2024年3月

藤沢市の企業等が環境緑化を推進するための活動を紹介しています



アイシンシロキ株式会社藤沢工場



協同油脂株式会社



藤沢市企業等環境緑化推進協議会では、会員企業を募集しています。
私たちと一緒に緑あふれるまちづくり活動に参加しませんか。



会長より ごあいさつ

春分の候、寒さの中にも春の気配を感じる季節となりました。皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、当協議会の令和5年度事業活動におきましては、皆様のご協力により無事終了出来ました事、厚く御礼申し上げます。

さて、2020年から新型コロナウイルスの影響により様々なことが制限された中での活動を強いられておりましたが、2023年5月、感染症法上の位置づけが2類から5類に移行しました。徐々にではありますが、ようやく以前の活動がしやすい環境となりました。日常生活では、4年ぶりに声出し応援可能となった各種スポーツ大会、お祭りや花火大会などのイベントも再開され、人々の行動範囲も広がり、街に活気が戻ってきたように感じています。

そのような中で2023年を振り返りますと、過去最高を記録するなど記録的な気温上昇の年となりました。7月に国連のグテーレス事務総長が「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代がきた」と警告を発信したことが深く印象に残っております。地球の温暖化がもたらす事象として、大雨による洪水の被害、熱波による山火事など世界的に自然災害や自然破壊の恐れがあり、切実な問題であると考えます。

そのために「緑」を増やすことが急務です。「緑」に

株式会社ヤクルト本社湘南化粧品工場



会長 大林 緑

藤沢市企業等環境緑化推進協議会

はCO₂の吸収効果があり、地球温暖化防止の一助になると共に温度や湿度の緩和効果があり、ヒートアイランド現象の防止にも役立っています。

地球温暖化の加速を止めるための「緑」の推進は、各企業様におかれましても積極的に取り組みを推し進めていることと存じます。現在、当協議会には43社加入いただいております。今後も緑化活動を有効に推進していくために、藤沢市と連携し、各企業間の情報交換の有効な場としてご活用いただければ幸いに存じます。引き続き皆様方のご協力およびご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さらに2024年は、当協議会創立50周年を迎え、記念式典も予定されております。50年もの長きに渡り、活動が継続されていることは素晴らしい実績であると考えます。ご尽力いただいた先人の方々の想いを引き継ぎ、未来に向けてさらなる緑化推進の起爆剤になることを祈念いたします。大いに盛り上げていきましょう。

令和5年度 藤沢市企業等環境緑化推進協議会会員企業(令和5.4~令和6.3)

| 企 業 名 | | | |
|-------|------------------------|----|----------------------|
| 1 | いすゞ自動車(株)藤沢工場 | 31 | (株)門倉組 |
| 2 | エムデン無線工業(株) | 32 | ミネベアミツミ(株)藤沢工場 |
| 3 | 一般財団法人同友会藤沢湘南台病院 | 33 | (株)須藤製作所 |
| 4 | (株)テクノステート | 34 | (株)佐賀鉄工所藤沢工場 |
| 5 | (株)日東社 | 35 | NSKマイクロプレジジョン(株)藤沢工場 |
| 6 | (株)東京ゴム製作所 | 36 | アズビル(株)藤沢テクノセンター |
| 7 | リバー(株)藤沢事業所 | 37 | 特定医療法人社団清心会藤沢病院 |
| 8 | いすゞロジスティクス(株) | 38 | 日東化学産業(株) |
| 9 | オイレス工業(株)藤沢事業場 | 39 | 日電工業(株) |
| 10 | 日本ギア工業(株)藤沢工場 | 40 | (株)大峯 |
| 11 | ナショナル・ベンディング(株)湘南第一営業所 | 41 | 東レ(株)基礎研究センター |
| 12 | (株)イチネンケミカルズ研究開発センター | 42 | 池上通信機(株) |
| 13 | 佐藤商事(株)神奈川コイルセンター | 43 | (株)神戸製鋼所藤沢工場 |
| 14 | デノラ・ペルメレック(株) | | |
| 15 | (株)オシキリ | 30 | (株)ヤクルト本社湘南化粧品工場 |

《 第50回 総会 》

藤沢市企業等環境緑化推進協議会の第50回総会を、令和5年5月16日(火)に藤沢市役所本庁舎8階8-1、8-2会議室にて開催いたしました。

令和4年度の事業報告、決算報告及び監査報告、令和5年度役員の改選、事業計画及び収支予算が承認され、無事に審議を終えました。

(事務局 記)

《 第42回 藤沢市緑と花いっぱい推進の集い 》

令和5年11月11日(土)

藤沢の緑を守り育て、市民による「緑と花いっぱい運動」をさらに推進していくことを目的とし、「藤沢市みどりいっぱい市民の会」「藤沢市」「当協議会」の3者共催で開催しており、今年で42回目を迎えました。(会場：藤沢公民館・労働会館等複合施設Fプレイス)

令和5年度「緑と花のまちづくり」表彰式では、緑と花いっぱい功労者や各種コンクール(標語、緑と花のまちづくり、学校花だん、ポスター)において優秀賞・最優秀賞を受賞された方々にご来場いただき、各作品の発表と表彰を行いました。受賞者インタビューでは作品の背景やコンクールへの想いを伺い、市民の皆様や未来を担う子供たちの言葉からあらためて藤沢市の緑と花の魅力を再認識する機会となりました。その後の緑化セミナーでは、遠藤笹窪谷公園の自然環境の紹介や花壇づくりのアドバイスなどを講義いただき、緑化への関心を深めることができました。来年度も引き続き、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

(東レ株式会社基礎研究センター 半谷 記)



《 ブロック会議 》

令和5年度のブロック会議は、令和5年12月1日(金)に藤沢市役所本庁舎3階3-3会議室にて開催し、12社14名が出席しました。議題は、本年度の事業経過報告、予算執行状況、予定している来年度の各事業等について、出席した会員が2つのグループに分かれ、各グループの意見交換が行われました。意見交換後には討議内容を各グループの代表者が発表し、次年度の各事業に反映することとしました。各グループにおいて、盛んに議論され、発表では様々な意見が挙がり、とても有意義な会議となりました。

(事務局 記)



視察見学会及び緑化技術講習会



令和5年7月6日(木)に本年度の視察見学会及び緑化技術講習会を藤沢市遠藤笹窪谷公園にて実施いたしました。12社14名が参加し、講師はみどり保全課・自然生態専門員の石田聡が務めました。汗ばむ陽気の中、公園内を散策した後、涼しい室内で生物多様性やSDGsについての講習を受講しました。(事務局 記)

藤沢市の3大谷戸の1つでもあり、生態学的にも市内トップクラスの良好な自然環境を保有している貴重な公園を訪問させていただきました。

山道を少し歩き進めると、街の喧騒を忘れさせてくれる豊かな里山の景色が広がっていました。

園内散策の際は、虫取り網を各自1本配られ、自由に昆虫を捕まえるという貴重な体験をさせていただきました。大人になり虫取り網を持って、実際に捕まえるということに、最初は戸惑いも感じましたが、いつの間にか童心に帰ったように、暑さや時間が経つのを忘れ夢中で採集をしていました。(数種類のトンボ、トノサマバッタ、モンキチョウなど)

遠藤笹窪谷公園は、藤沢市の中で最も豊かな自然が残されている場所です。みなさんも一度、ご家族で足を運び昆虫採集体験をされてはいかがでしょうか。楽しい思い出の1ページを描くことができると思います。

(オイレス工業株式会社藤沢事業場 稿本 記)



全員が童心に帰った視察の後には、生物多様性サテライトセンターにおいて、「生物多様性とはなにか？SDGsとの結びつき」についての講習となりました。先ず生物多様性とは“地球には色んな種類の生き物がいる”その中で・生態系の多様性。・種(種間)の多様性。・種内(遺伝子)の多様性の3つに区分される事。またそのそれぞれの多様性についての危機。そしてそれらの生物多様性を持続するためにSDGs目標15である“陸の豊かさを守ろう”との結びつきが重要であり、我々に課せられた課題である事を学びました。後半は“気候変動の急加速化”の影響を受け倒木などの被害を受けた森の回復活動が行われている事の説明を受けまし



た。もはや近年における気候変動は人災と言っても過言では無く、CO₂削減が急務であり地球全体で取り組んでいる課題です。弊社においても2030年までに2013年度比50%削減をコミットし、現在全社を上げて取り組んでいます。

今回の座学は限られた時間でしたので、正直全てを理解できたとは言えませんが少なくとも“理解してから行動する”のではなく“行動しながら理解し学ぶ”ことも時には重要であると感じました。業務以外でも日頃の行動や生活等、今一度振り返り豊かな自然環境が持続出来るよう小さな事でも積極的に取り組んで行きたいと改めて自己啓発させて頂いた講習でした。

(いすゞ自動車株式会社藤沢工場 森 記)



会 員 紹 介

協同油脂株式会社

所在地 藤沢市辻堂神台2-2-30

事業内容 グリースおよび金属加工油剤の製造・販売

協同油脂(株)は、現在の神台公園のある場所に辻堂工場を建設し、1947年3月からグリースの製造を開始しました。その後、辻堂駅前の再開発（湘南シークロス）に伴い、2007年から現在の場所に移転し、本社・R&Dセンターとして主に研究開発を行っております。

当社はグリースおよび金属加工油剤の開発・製造・販売を行っている潤滑剤の専門メーカーですが、特にグリースの国内シェアはNo.1で、製品は普段目につきませんが、あらゆる産業に使用されており、なくてはならないものです。例えば身近なところでは、家電・自動車の様々な部品、新幹線の主電動機（モーター）、宇宙ステーションにも採用されております。当社のグリースおよび金属加工油剤は世界中で使用されており、様々な部品の摩擦を低減させます。例えば自動車の燃費向上や、エネルギー消費改善など、微力ではありますが、カーボンニュートラルに貢献できるものと考えております。

また、本社・R&Dセンターは、周辺環境に配慮した構造になっており、外構・植栽・景観については、ケヤキ・オオシマザクラ・アジサイ等季節にあわせた植栽を行っており、当社から四季を感じていただければと思います。敷地内にはビオトープもあり、メダカが元気に泳いでいます。また駐車場には、本の代わりに酒匂川の堤に植えたとされる松の苗木を持った「二宮金次郎」像が見守ってくれています。



アイシンシロキ株式会社藤沢工場

所在地 藤沢市桐原町2

事業内容 自動車部品製造

私たちアイシンシロキの社名は遙か昔、江戸3大呉服店の白木屋がその由来となっております。東京の下十条に本社工場設立後、品川への移転を経て1967年より藤沢へ根を下ろしました。時代の変遷と共に白木金属工業からシロキ工業へと社名変更し2023年4月にアイシンの経営統合を経て現在のアイシンシロキとなりました。

環境問題への取り組みは人類共通の課題です。これらはアイシングループの行動憲章として掲げられており環境への取り組みは、今まで以上の対応が求められるようになりました。

アイシンシロキ藤沢工場の主力製品は自動車用部品です。藤沢工場で生産したドアサッシュ、シートアジャスターなどを世界中のお客様にお届けしています。

工場敷地内には災害時の避難所、レクリエーションを兼ねた芝生地があり桜をはじめ、ヒマラヤ杉、金木犀、イチヨウ、モクレン、ナラの木、枇杷の木、夏みかんの木などバラエティに富んだ植物が植えられています。

正門脇の花壇を彩る草花は長年に渡り諸先輩方が植えて下さった賜物で季節感を味わえるバリエーションになっています。最近ではコキアが彩り豊かになっており通行人の方が撮影する様子が見受けられます。私たちの五感を心地よく楽しませてくれる事に感謝しつつ雑草や伸びすぎた枝は社員有志で手入れをしています。社員のみならず近隣の皆様の癒しにつながるよう大切に育てていきたいと感じております。



公園・緑地紹介

稲荷の森(ふるさとの森)

藤沢市稲荷1106番地先



●始まりは、市制50周年記念・1万本植樹から

今から33年前の1990年10月20日、当時荒廃していた斜面の一角で、藤沢市制50周年を記念した植樹祭が行われました。植樹祭は、神奈川県と藤沢市が取得した斜面地に、クヌギ、コナラ、スダジイ、カシ類、タブノキ等の小さな苗木1万本を、多くの市民の手で植えるものでした。翌年からは、当協議会も参加する「みどりと花いっぱい推進の集い」の記念植樹事業として、約15年の間、毎年10月に新たなエリアへの植樹が続けられ、稲荷の森(ふるさとの森)として現在に至っています。また、苗木が小さな間は毎年8月に「推進の集い」関係者が森に集まり、下草刈り等の管理作業を行ってきました。

植樹開始から30年以上を経た現在では、植樹年代の構成樹種の違い、管理方法の違いなどから、エリアにより森の景観に多様性が生じています。

●森を楽しむ・森を創る

現在、森の管理は主に藤沢市とNPOが協働で行っている他、地元企業関係者も保全活動に参加されています。また、持続可能な管理の仕組みが出来つつあり、併せて、森の生物多様性も高まりつつあります。近年は、観察会や各種講座、公民館による親子向けの「森づくり体験講座」が定着するなど、社会教育の場としての重要性も高まっています。

本市が推進する「藤沢市生物多様性地域戦略」では、「緑地・水辺の質の向上」と「子どもたちが日常的に遊べる山・森・林(里山環境)の創出」を重要な施策として掲げており、稲荷の森(ふるさとの森)はますます重要な場所となっています。



写真／①③公民館との共催による「森づくり体験講座」、②ヤマユリ(6月)、④地元企業によるCSR活動、⑤小径周辺の管理状況、⑥隣接する「流れのビオトープ」での自然観察、⑦ヤマトタマムシ(7月)

藤沢市自然生態専門員 石田 聡

編集後記

今年も春の訪れと共に、機関誌「緑光」78号をお届けします。2023年度はwithコロナによる行動制限もなくなり、「緑化技術講習会」及び「視察見学会」についても無事開催することができました。緑化技術講習会につきましては、猛暑のなかではごさいましたが、大変貴重な時間を共有することができました。これからも、緑のまちづくりを目指して緑化意識の普及、向上、啓発に努めて参ります。(アズビル株式会社藤沢テクノセンター 山田 記)

発行者：藤沢市企業等環境緑化推進協議会

編集委員：東レ(株)基礎研究センター、いすゞ自動車(株)藤沢工場、アズビル(株)藤沢テクノセンター、プレス工業(株)藤沢工場、ナショナル・ベンディング(株)湘南第一営業所、東京ラヂエーター製造(株)

事務局

〒251-8601 藤沢市朝日町1-1 藤沢市役所みどり保全課
TEL:0466-25-1111(内線4352) FAX:0466-50-8421
E-mail:fj1-midori@city.fujisawa.lg.jp

ホームページ

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/midori/machizukuri/kankyo/shizenhogo/kigyoryokuka.html>